

# AFT ジャーナル

●東京オフィス 〒100-0011 東京都千代田区幸町1-1-1 帝国ホテル6F ●大阪オフィス 〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F ●ホームページ: www.aft.or.jp

vol. **78** / 2022 Spring

プレゼン用のスライド作成の注意点とは

## 背景色と文字色の組み合わせによる見やすさの関係

テレワークや遠隔授業などリモートでの作業が増加し、テレビ会議でプレゼンテーションを行う機会が増えていきます。その際に必要なのがスライドですが、情報を正確かつ迅速に伝えるためには見やすさに配慮して作成しなければなりません。

「見やすさ」には、**視認性、誘目性、可読性、明視性、識別性**の5つの性質がありますが、スライドにおいては、探しているときの発見のしやすさである「**視認性**」と、文字や数字の読みやすさである「**可読性**」が重要で、どういった条件であれば見やすいのか、いくつかの実験から注意すべき点がわかりました。

**視認性**については実験は、2つの異なる色の文字列を並べたものを液晶モニターに表示し、被験者に見やすいと思っただ方の文字列を選んでもらう方法で行いました。

まず、白色背景に21色の文字②を用いた計420組を一人ひとりの被験者に提示して評価してもらいました。被験者は、若年者12名、高齢者予備軍17名、高齢者11名です。結果として、年代に関係なく背景色と文字色の**コントラストが大きくなるほど視認性が高くなるもの、コントラストが大きくなりすぎると視認性が低下**することがわかりました。また、加齢に

伴って輝度コントラストへの依存が大きくなり、色度（色味）の影響が小さくなる傾向が示されました。

次に、白色に対して反対色である黒色を背景色とし、背景色の輝度が最も低い状態で、白色背景と同様の実験を行いました。被験者は若年者10名です。結果として、**白色背景よりも黒色背景の方が輝度コントラストに依存して視認性が高くなる**傾向が示されました。

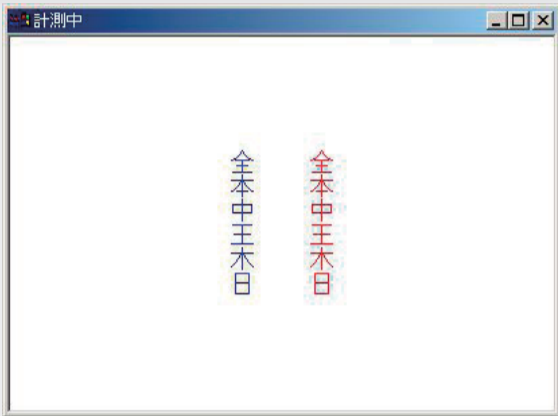
実際のプレゼンテーションのスライドでは、短い言葉だけでなく文章も必要です。そこで**可読性**についての実験では、眼球運動測定装置を用いて文章を読んでいる際の視線移動を測定③。1文字当たりの黙読時間や注視時間などを算出して可読性を評価しました。被験者は10名で、30文字×13行の文章の内容を理解しながら黙読するように指示し、直後に3択形式で文章内容の確認を行いました。背景色には白色と黒色を用い④、文字色は背景色に対して輝度コントラストが25%、50%、75%、92.5%となる4段階の無彩色⑤にしました。

結果として、白色背景と黒色背景の両群において、**背景色と文字色の輝度コントラストが低下すると黙読時間、注視時間ともに長くなる**傾向が示され、可読性が低下することがわかりました。この傾向は黒色背景の方がより顕著で、個人差も大きくなる傾向でした。

これらの実験から導き出されたスライド作成の注意点は以下の3つになります。

- ① 視認性を高めるためには、背景色と文字色の輝度コントラストを大きくする必要はあるが、輝度コントラストが大きくなりすぎると視認性が低下するため、背景色と文字色の輝度コントラストが過度にならないように注意する。
- ② 加齢により、より輝度コントラストに依存し、色度の影響が小さくなる傾向が見られたことから、色に頼った情報表現は最小限にとどめるべきである。
- ③ 黒色背景における視認性は、輝度コントラストに依存し色度の影響が小さくなるが、注視点計測を用いた可読性評価では個人差が大きくなり、アクセシビリティの観点からは、白色背景を用いた方が良い。

中央学院大学 現代教養学部  
准教授 齋藤 大輔



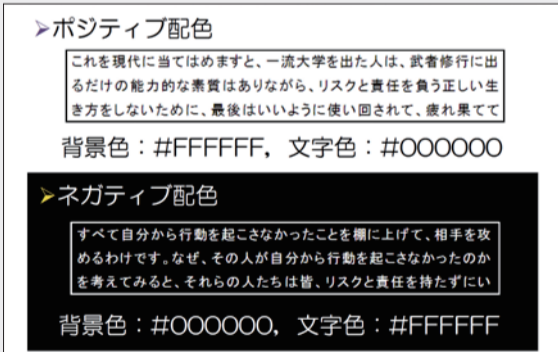
① 課題の呈示画面例



② 使用した背景色と文字色



③ 眼球運動測定装置



④ 背景色と文字色の例



⑤ 背景色と文字色のコントラストイメージ

